大草谷津田生きものの里 自然観察会

冬越しするムシたち

西野孝法（千葉市）

日　時：2020 年 12 月 6 日（日）10 時 30 分～12 時　天気：晴れ
参加者：13 名（大人 7 名、子ども 6 名）指導員：3 名　サポート：2 名(岡田 萩)
担当指導員：田島正子　山下美佐子　西野孝法

天候は、晴れ！ 風もなく観察会には絶好のコンディションとなった。初冬の静かな谷津田は、虫を見つけたり、ぬかるみに足を取られたりした子どもたちの声で賑やかになった。

静かな谷津田に子どもたちの声が響く

密を避けるため、参加者が揃った班から観察を始める。班編成は、2 家族(8 名)がキャンセルになり、飛び入りの親子 2 名を加えた 2 班となった。初めて参加の方達に大草観察会の約束を話すが、「早く生き物と会いたい！」という気持ちが、伝わってくる。観察用に虫メガネを渡し、観察ポイントに向かう。気温が上がり生き物たちが顔を出し始めると参加者のテンションはさらに上がり、オオアオイトトンボ、コバネイナゴ、カナヘビ、キタテハ、アキアカネなど次々と捕らえては、「これ、何？」と持ってくる。名前と特徴を伝える。捕虫網に入っているものは手に取るように促す。おっかなびっくりしながら手にする子どもたちの様子に皆、大いに盛り上がる。初めてカナヘビを手に持った子どもの顔に達成感による笑みが浮かび、50 年以上前の自分が重なった。図鑑で見たものが自分の手の中にいて感触を知る。子どもたちにとって生き物を知る大きな一歩となった。ムシ以外にもオニフスベ、カラスウリにも触れさせた。オニフスベの大きさ・感触とカラスウリの種の不思議な形が参加者の興味を引く。カラスウリの種の形が、縁起が良いということで昔の人たちが財布に入れていたことも伝えた。

「愉しかった」「冬なのにこんなに虫がいるとは驚いた」等の感想をいただき、「積極的に外に出て生き物たちとの出会いを愉しんで欲しい」と伝え観察会を終えた。

虫メガネを手にとる子どもたち、目指せ！昆虫博士

オニフスベの大きさに感動